



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

神の母聖マリア A年 (2023年1月1日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：民数記 6章 22—27節

第二朗読：使徒パウロのガラテアの教会への手紙 4章 4—7節

福音朗読：ルカによる福音書 2章 16—21節

## 父ちゃん ありがとう

新年を迎えて、穏やかなところで過ごすことができますようにと願います。穏やかなところは神さまからのプレゼントです。自分で獲得したものではない。しかし、同時にすこしわたしの側<sup>がわ</sup>の努力<sup>どりよく</sup>も必要かと思えます。

今日の三つの朗読に、今、味わっている穏やかなところを保ち続けるためのヒントのようなものを見つけました。

## 祝福

第一朗読は俗に「アロンの祝福」と呼ばれる箇所<sup>かしよ</sup>です。今でもユダヤ教ではこの箇所<sup>かしよ</sup>を使って祭儀<sup>さいぎ</sup>の際に祝福の祈りをします。

ユダヤ教だけではなく。例えば、アッシジの聖フランシスコはこの祝福の言葉で自分の仲間、兄弟<sup>はげ</sup>たちを励まし、力づけました。

「神が御顔<sup>みかお</sup>を向けて」とは、神の方がわたしに向かって顔と顔を付き合わせてくださる様子<sup>ようす</sup>です。

神が御顔をわたしに向けてくださるから、平安、平和、穏やかなところが得られるのでしょう。

いつも、いつも、「神よ、あなたの御顔をわたしの方へと向けてください」と祝福を願う祈りをしていけたらよいだろうなと思えます。

## 神の子

第二朗読では、その神から祝福を受けたわたしたちが、どのようなものへと変えられていくかが描かれているようです。

それは、「神の子」となることです。しかも、イエスさまとおなじように神の子となる<sup>れい</sup>霊をいただいて、イエスさまがそうであったように、神さまに向か<sup>む</sup>って「アッバ、父よ」と親<sup>した</sup>しみを込<sup>こ</sup>めることができるようになるのです。

この一年、「神さま」ところろの中で呼びかけるのでなく、「アッバ、父ちゃん」と親しく呼びかけてみたいと思います。

そうしたら、アッバ、父ちゃんは、<sup>おだ</sup>穏やかなところをどんな時にも送ってくれるでしょう。

## 思い巡らす

それでもなお、わたしたちは知っているわけで、つまり、この<sup>おだ</sup>穏やかなところが<sup>ながつづ</sup>長続きしないことを。

こころのアップダウンはけっこう<sup>はげ</sup>激しいものがあります。

思いもかけないことが起<sup>お</sup>こる毎日です。毎日の出来事<sup>なみ</sup>の波にもてあそばれて、アップアップで生きていくのが現実かもしれません。

そしたら、<sup>おだ</sup>穏やかなところがどこかに行ってしまうことは、よくある話です。

そんな折<sup>お</sup>り、今日のマリアさまの<sup>たいど</sup>態度を<sup>まね</sup>真似できたらよいかと思いますね。「これらの出来事をこころにとめ、<sup>おも</sup>思い<sup>めぐ</sup>巡らしていた」

<sup>そうていがい</sup>想定外の出来事に、<sup>はんのう</sup>すぐに反応するのではなく、キツとなっていraftくのではなく、とりあえずこころに<sup>と</sup>留めて、味わってみる。

何かそんな態度が必要なのかと思います。

新しい年を迎えました。何がおめでとうなのと<sup>どく</sup>毒づいていたうちの高齢の神父さんも今朝いまして、<sup>おめでとう</sup>「おめでとう」は祝福の言葉です。祝福のことばで始まったこの一年、最後には「ありがとう」のこころからの感謝のことばで終わることができますように。